青葉区明るい選挙推進作文コンクール

2020 入賞作品集

ぼく、「えら坊」！

平成9年 12 月 25 日生まれの青葉区の選挙マスコットキャラクター！区民の皆様からご応募いただいた 519 点のデザインの中から選ばれたんだ♪

青葉区民まつりなど各種イベントで、不正のない明るい選挙の推進や投票率の向上の呼びかけをしているよ。

☆明るい選挙推進協議会とは

① 不正のないきれいな選挙（寄附の禁止）

② 投票総参加の推進

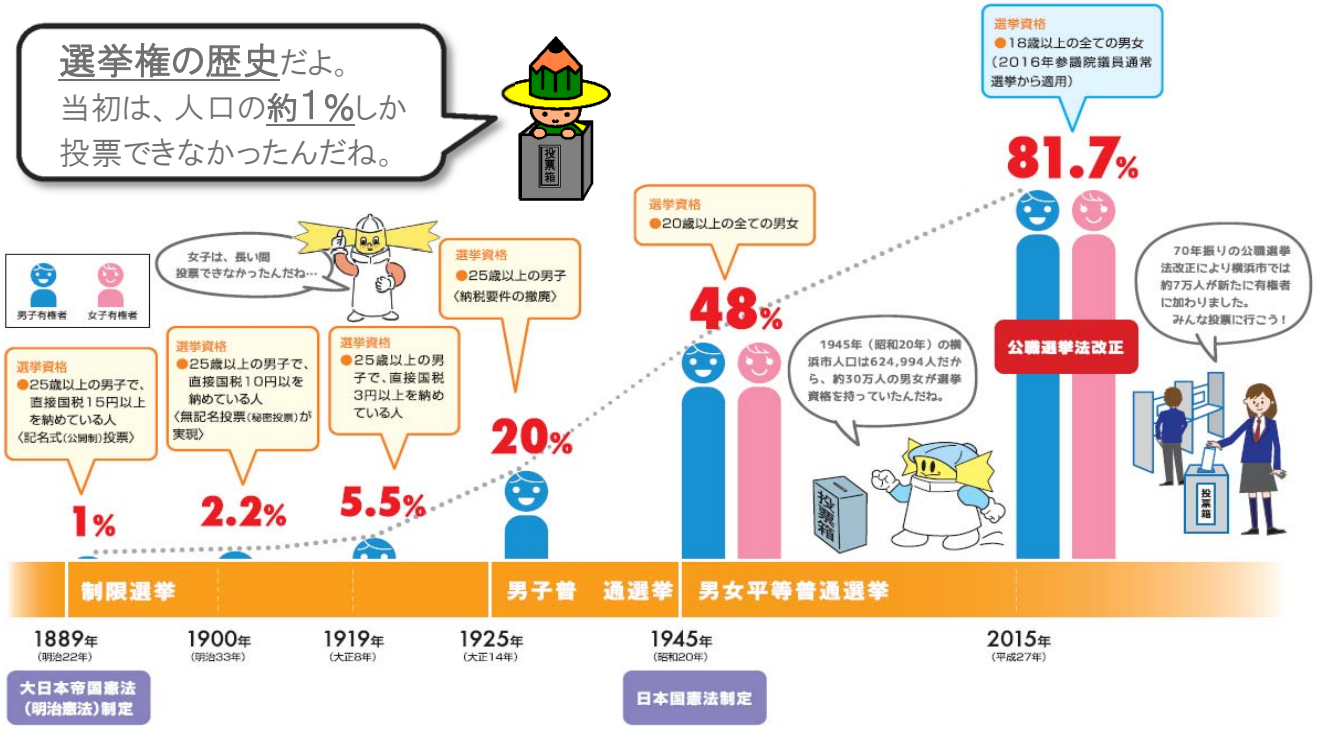
を大きな柱として活動をしている団体で、全国の都道府県・市区町村に設置されています。

☆青葉区明るい選挙推進協議会とは

自治会・町内会等から推薦された推進委員 14 名と推進員 109 名により構成され、選挙時の街頭啓発などの活動を行っています。

選挙に関するマメ知識

選挙権の歴史だよ。
当初は、人口の約1%しか
投票できなかったんだね。



「選挙の3原則」

1 普通選挙

選挙権は、一定の年齢に達したすべての国民に与えられる

2 平等選挙

選挙人一人に一票。性別・財産・学歴などでの差別はない

3 秘密投票

誰が誰に投票したかが、わからないような方法で選挙がおこなわれる

目　次

ー　青葉区明るい選挙推進協議会　会長賞　ー

投票しやすい環境へ　山内中学校　三年　小澤　リナ　・・・1

ー　青葉区選挙管理委員会　委員長賞　ー

自ら選挙に参加する世の中のために　山内中学校　三年　山口　萌花　・・・3

ー　青葉区長賞　ー

選挙への関心を持つために　鴨志田中学校　三年　大島　明子　・・・5

ー　佳作　えら坊賞　ー

よりよい選挙にするために　山内中学校　三年　田森　文椛　・・・7

一人の意見の重要さ　山内中学校　三年　山川　春花　・・・8

選挙以外のときからコミュニケーションを　山内中学校　三年　山城　由利子　・・・9

今の自分と選挙　鴨志田中学校　三年　中川　彩乃　・・・10

選挙への姿勢　鴨志田中学校　三年　本田　聖貴　・・・11

青葉区明るい選挙推進協議会会長賞

投票しやすい環境へ

山内中学校　三年　小澤　リナ

私たちは三年後に選挙権が認められる。しかし、私は投票しに行かないかもしれない。なぜかというと、今私たちは選挙になじみがないからだ。選挙というとご高齢の方が投票しに行くイメージで、ニュースなどを見ていても堅苦しい感じがする。

では、どうしたら若者の投票数を今よりも多くできるのだろうか。今は学校や地区センターなど地域の施設で投票を行っていることが多い。それを、例えば駅やインターネットでの投票を可能にする、もしくは、なぜ投票しに行く必要があるのかを説明すれば、若者が選挙に興味関心を少しでも持つようになるのではないかと思う。駅での投票を可能にすれば、わざわざ学校などに行かなくても気軽に投票しに行ける。しかしその一方で、問題点もある。それは「気軽」に投票しに行けるというのははたして良いことなのかという点だ。様々な選挙があるが、どれも代表者を決定するためのものであって、決して中途半端で軽い気持ちで投票してはいけないと思う。

ところで、特に高い投票率を誇っているオーストラリアの選挙と日本の選挙にはどのような違いがあるのか考えていきたいと思う。まず、二〇一九年五月に行われたオーストラリアの議会選挙では、なんと投票率は９１・８９％だったのだ。はたしてなぜそんなにも投票率が高いのか。実は、オーストラリアでは十八歳以上の有権者が国政選挙で投票することが義務化されているのだ。正当な理由なく投票しなかった場合、日本円にしておよそ千五百円の罰金が科せられる。かつて、オーストラリアの議会選挙の投票率は５０％台まで下がったことがあった。しかし一九二四年にこの制度が導入されて以降、投票率が９０％を下回ったことはないのだ。また、郵便投票も可能で投票しやすい環境が整っている。そして何より私が驚い

たのが、オーストラリアでの選挙の投票日は必ず土曜日で、投票所となる公共の施設にはさまざまな屋台が立ち並んでいるのだ。バーベキューをしている人もいればカップケーキなどのスイーツも売られ、まるで地元のお祭りのよう。つまり、オーストラリアの選挙の投票率が高い理由として、義務化されていること、そして、投票しやすい環境が整っていることがあげられる。

このように、日本の選挙も何かひと工夫することで、若者にとっても「堅苦しい」ではなく、「投票しやすい」環境になるはずだ。そして、今の若者は選挙について積極的に学び、自分の身近なことの一つとして考えるということが必要だと私は思う。

〈講評〉

力作ぞろいの応募作品の中からこの作品を選び出しました。筆者は、どのようにすれば、若者の投票率が向上するかを読み手に投げかけています。投票所を通学や通勤にもちょっと立ち寄れる「駅」に設置したらどうか。また、全体に投票率の高いことで世界中に評価されているオーストラリアの実例を取り上げ、投票日を土曜日にしたり、かた苦しい投票所の雰囲気を和らげるための屋台や出店を開くなどのアイディアを紹介するなど、中学生らしい柔らかな発想は、説得力があります。

青葉区選挙管理委員会委員長賞

自ら選挙に参加する世の中のために

山内中学校　三年　　山口　萌花

私は十四歳。家族の中で選挙権をまだ持っていないのは私だけだ。私も早くあの銀色の箱に投票用紙を入れてみたい。

中学校で選挙権の歴史を学んだ。納税している男子だけしか投票できなかった時代を経て、今は女性も投票できるようになり、二〇一五年からは十八歳以上が選挙資格を持てるようになった。選挙権は人権だ。国の政治に参加することのできる権利なのだ。この作文コンクールの応募要項には投票率のグラフが載っており、約４５パーセント付近に印がついている。その横のコメントは「青葉区は高い投票率を誇っている。」私が定期試験で百点満点中４５点だったら、先生はきっと「よく頑張ったね」とは言って下さらないと思う。投票率は４５パーセントで誇っていいなんて不思議だ。選挙に行ってもどうせ何も変わらないというインタビューをニュースで見たことがあったが、この数字では変わらないのも当然だ。もしかしたら投票率が上がらないほうが得をする人もいるのかなとつい勘繰りたくなる。

中学生の私には４５という数字にやはり物足りなさを感じるので、投票率を上げる工夫を考えてみた。第一にオンライン投票。コロナ禍でテレワークやオンライン授業のために集められた多くの知恵やシステムをぜひ投票にも取り入れていただきたい。私たちは生まれた時からデジタル機器に囲まれたデジタルネイティブなので、すぐになじめるはずだ。投票方法によって年齢層などに偏りが生じないよう、紙の投票とオンライン投票という複数の選択肢があるのが理想的だ。第二に投票所の多様化だ。職場や大学、コンビニなどに投票所があれば普段の外出のついでに投票できる。銀行のＡＴＭくらいあちこちで投票できれば、面倒くさいと言うこと自体が恥ずかし

くなるのではないだろうか。そして第三に中学生のインターン制度を提案したい。私には地元選出で名前と顔がはっきりわかる議員さんが三人いる。小学生の頃に毎年応募していた青葉区の絵画展で審査員を務めて下さっていた議員さんだ。絵の選出や表彰式の講評だけでなく、中学校の行事も視察されていて、偶然会った私に声までかけてくれてとても嬉しかった。ポスターで顔を見たことがあるというのと話したことがあるというのとでは親近感が全く違う。あの議員さん達は普段どんな仕事をしているのだろうととても興味があるし、もし私にお役に立てることがあるならやってみたい。そして何より、私は中学校で学んだことが実際に世の中ではどうなっているのか知りたくてたまらないのだ。選挙権を得るまでの数年間でもっと多くのことを学んで、堂々と自信を持って投票所へ行ける十八歳になりたい。

〈講評〉

最初に、自ら投票をしてみたいとあり、「選挙権は人権だ。」と明確に定義している。投票率アップの対策も現状をふまえ、オンライン投票や紙の投票と、年齢層に偏りが生じないよう提案している。又、議員さんを知り、どんな仕事をしているのだろうと興味があるとのこと、この興味こそ大切なことと思われる。最後に、「堂々と自信を持って投票所へ行ける十八歳になりたい。」という、将来に向かう姿勢に期待がふくらむ作品です。

青葉区長賞

選挙への関心を持つために

鴨志田中学校　三年　　大島　明子

あなたの知っている政党をできるだけ多く言ってください。自由民主党、立憲民主党、公明党、色々あります。では、それぞれの政治方針について答えられますか。

令和元年七月の参議院議員通常選挙での投票率は４８．８％と低い結果だった。また、全国意識調査の棄権理由では、「選挙にあまり関心がないから」という人が一番多く、２７．１％、「政党の政策や候補者の人物像の違いがよくわからなかったから」が三番目に多く、２４．６％だった。

私は選挙権を持ったら投票に行こうと思っているが、前述した質問に答えられなかった。政治に関心がないと、どこに投票すればいいのか分からないのだ。では、政治に関心を持つにはどうすればいいのだろう。

政治への関心が高く、国政選挙で８０％を下回ったことがないデンマークを例に見てみる。この国では、日常的に政治の話をしていて、普通の学生でも「遊びに行こう」くらいのノリで政治的なイベントに参加している。また、授業として模擬投票が行われている。生徒たちは各政党の政治方針について調べ、ディスカッションしていく。これにより、自分の意見に合った政党を見つけているのだ。さらに、デンマークの人々は自分と考えが違っていても否定をしないという特徴がある。対話をすることで、話題の様々な側面を知ろうとしているのだ。

対して日本では、政治の話はタブー視されている。例えば、今年五月にツイッターで「#検察庁法改正案に抗議します」を投稿した芸能人に対し「よく知りもしないで発言するな」というような批判が寄せられた。また、政治的な発言をした人が、「反日だ」と誹謗中傷

されることも起きた。このように日本では政治的な意見を言うことで批判されることが多い。このことから、デンマークのように自分と考えの違う人を批判しないで「そういう考え方もある」と認めることが大切だと思った。また、周りの人が話しやすい空間を生み出すことで政治の話がしやすくなり、政治に関心を持つ人が多くなるのではと考えた。

世代間の投票についてみてみると、前回の参議院選投票率は六十代が一番高く６３・５８％、二十代が最も低く３０・９６％だった。投票しないと国民の意見は行政に届かないし、若い世代の投票率が低いと政治方針の世代格差が生まれやすくなる。

私にはまだ選挙権はないが、将来選挙権を持った時のために、政治についての話題を自分から話してみたい。そうすることで、政治に関心を持つ人が増えて、自分自身も多面的な視点を持つことができるからだ。そのために、今以上にニュースを見て、調べて意識的にインプットしようと思った。

〈講評〉

政治が日常生活の延長線上にあるデンマークと日本を比較し、政治に関心がない事による低投票率という、日本の問題点を鋭く指摘している点が興味深く面白い作品です。政治の話をタブー視することや自分と違う意見を批判する点など、日本の現状を的確にとらえるとともに、政治に関心を持つための方策や、将来に向けての自分の行動にまで言及しており、若い世代の投票率の向上を期待する内容となっています。

えら坊賞（佳作）

よりよい選挙にするために

山内中学校　三年　　田森　文椛

私は選挙について、改めて真剣に考えてみました。日本の選挙についての一番の課題は投票率の低さだと思います。特に若い人達が選挙に行かないことが多いそうです。これからの日本をより良い国に変えることができるのは若い人達です。それなのに、若い人達の意見が反映されていない選挙は、日本の未来を考えると良くないと思います。この作文では、『なぜ若い人達は選挙に行かないのか』という理由と、私なりの解決策についてまとめてみました。

まず、若い人達が選挙に行かない最大の理由は、投票所に足を運ぶことが面倒だと感じていることだと思います。投票所は、学校か区役所などに設置されることが多く、二十代や三十代の人は日頃、立ち寄りません。また、天候が雨や雪だと投票率も落ち、若い人に限らず高齢者や障害者などは投票所に行くのがそもそも難しいことがあると思います。このような事が原因で、特に若い人の投票率が減っていると思います。

では、実際にどうやって解決すればいいのか。私の解決策は主に四つあります。

一つ目は、投票所を休日に人がたくさん集まる場所に変更することです。例えば、ショッピングモールか駅などが考えられます。これらの場所は、若い人も利用することが多いので投票のきっかけになると思います。

二つ目は、学校か区役所に投票所を設置しなければいけない場合、とにかく人を集めることを目的に、出店などを許可していく事です。このようにすれば、選挙に興味のない若い人達にも、アピールをすることができると思います。

三つ目は、移動販売車のように、投票所自らが移動するというアイデアです。バス程度の大きさがあれば、十分に実現できると思います。広い地域であれば、複数のバスを手配しても良いと思います。こうすれば若い人だけではなく、高齢者や障害者など選挙に行くことが難しい人達にも対応できます。

四つ目は、インターネットでの投票です。若い人達はほぼ全員スマートフォンか携帯電話を持っています。それらで直接、投票ができるのでわざわざ投票所に足を運ぶ必要もありません。天候にも左右されません。選挙自体のコストも下がると思います。しかし、プライバシーやセキュリティなど様々な課題があると思いますが、世界では実際に行っている国もあるので、インターネットの選挙の実現を是非してほしいと思います。

私はこれから選挙をする際にボランティアの募集などがあれば積極的に参加して、投票の流れや投票所の運営を正しく理解したいと思います。そうすれば、若い人の投票率を上げるために選挙のことを真剣に考えていきたいと思います。

えら坊賞（佳作）

一人の意見の重要さ

山内中学校　三年　　山川　春花

先日、私のクラスでは合唱コンクールの曲決めがあった。候補の曲がいくつか出され、クラス全員がその中の一つに投票する。要するに多数決だ。結果は全員の前で公開で開票される形であった。自分が希望していた曲は惜しくも一票差で、第二候補となってしまった。一人の意見は、とても重要なものなのだと感じさせられる瞬間であった。

自分の意見をもち、それを互いに共有し合うことは、普段の生活からよくあることである。例えば、学級活動や部活動での話し合いなどだ。しかし、話を聞いていない人や、意見をしっかり持っているのにも関わらず話さない人などが、大抵の場合いる。きちんと参加していなかったのに、後に文句を言ってきたり、こそこそと周りの人たちと陰口を言っていたりして、言いたい事があったのであれば、言えばよかったのに、と度々思っている。

中学校の段階では、このような事でしか自分の意見を共有しあう機会がないが、あと四年が経ち、十八歳となれば自分たちにも選挙権が与えられる。去年の参議院選挙の投票率を見てみると、十八～十九歳の青葉区の投票率は４８．０１パーセントとなっていて、横浜市の中では一位の投票である。しかし、それでも全体の半分の５０パーセントよりも低く、やはり若い世代の投票率が高いものであるとはいえない。青葉区よりも投票率が低い他の区であればなおさらである。決して人数がいるわけではない若い世代は、より多くの人たちが投票していかないと若い世代の投票率は上がらない。自分の意見をしっかりもって、実際に選挙に参加していけば、若い世代の意見も取り入れられた、過ごしやすい世の中になっていくのではないだろうか。

投票へ行かなかった人たちの中には、始め述べた人たちのように、結果が出てからあれはこうだった、それはああだったなどと後から色々と文句を言う人がいるだろう。文句があるということは、自分の意見をきちんと持っていることであると思う。きちんと意見を伝えなければ、自分が望む世の中を目指すことはできない。若い人がもっと積極的に選挙に参加し、一人一人の意見はとても重要なものであるということをそれぞれが自覚していくことで、若い世代の意見も尊重されていくのだと思う。

今まで、選挙について深く考えることはなかったが、あと三年も経てば自分にも選挙権が与えられる。一人の意見はとても重要なものであるということを忘れず、十八歳になったら選挙に参加したい。

えら坊賞（佳作）

選挙以外のときからコミュニケーションを

山内中学校　三年　山城　由利子

私は選挙に人々が関心を持たず、投票率が低下しているのは、二つの理由があると思います。一つは、候補者がどのような人か知らないことです。選挙の時に、初めて名前を聞くことも多いと思います。その人が、普段、どのような考えを持っているのかわかりません。

二つ目は、自分の意見が行政に反映されないと思ってしまったり、反映されているかどうか実感がわからないからではないかと思います。

つまり、興味がわかないからではないかと思います。

最近、近くのスーパーマーケットで、「お客様の声」という掲示板を見ました。そこには、顧客の質問や意見と、それに対するお店からの返事が載っていました。

私はそれを面白いと思いました。そして、興味を持って読みました。様々な意見があり、その中には、私から見たら少し無理なんじゃないかなと思う意見もありました。ただ、お店の人は、一旦どの意見も受け止めて、無理なお願いにも丁寧な断り方をしていました。

それを見て、選挙にも使えるのではないかと思いました。選挙の時というよりは、選挙が終わったあとの通常時に使うアイディアです。

有権者の質問や意見に、政治家本人が答える仕組みです。そうすれば、どの政治家がどのように答えたか分かり、その人をより良く理解できるのではないかと思います。

中には、無茶な要求をする人や援助ばかり求める人もいると思いますが、なんでも「やります」と答える政治家には、税金の使い道を正しく考えているのかを問うこともできます。

日頃から政治家と有権者が、多くの人の前でコミュニケーションをとる仕組みを作れば「興味」がでて、選挙そのものにも参加をし、意思表示をする人が増えるのではないかと思います。

また、将来有権者となる私たちも、この仕組みに参加できれば、中学生なりに疑問に思っていることを質問でき、興味を持つことができると思います。

えら坊賞（佳作）

今の自分と選挙

鴨志田中学校　三年　　中川　彩乃

今自分は中学生で、選挙に参加をするのはあと三～四年後になる。選挙に参加するということは、政治に参加して社会の一員になるということだと思う。だから、毎回ちゃんと考えて投票するべきだと思う。そのために今からできること、選挙についての勉強をしておくことが必要だと思う。

社会では、公民があり、そこで政治について勉強をする。そこで選挙については必ず学習すると思う。さらに、今は新型コロナウィルスが流行していて、ニュースでも政治について見ることが多い。政治をするのは選挙で国民によって選ばれた人。今のような状況でもしっかりと国民のことを考えて政治をしている人もいるし、そうでないことをしている人も中にはいると思う。私たち国民は、その人がどういう政治をしてくれるのか、その人が言っていることは本当のことなのかを見極める力が必要である。これらのことは、中学生でも考えられることだと思う。というか、中学生のうちに考え、政治についてをよく知っておくことで自分が選挙に参加するときに役に立つと思う。また、今コロナが流行して政治が変わってきている部分がある。これを機に中学生から政治や選挙に興味を持つのも良いと私は思う。どうしてこのような政策をするのか、これをすることによってどのような効果が得られるのか、今の状況だからこそ、考えるきっかけになると思う。つまり、私が言いたいことは、選挙は十八歳からだが、選挙や政治について考えるのは今からでも問題ないのではないか、むしろ今から考えた方がいいのではないか、ということである。だらだらと長くかいたが、一言でまとめるとそういうことになる。コロナはあくまでも例であり、コロナがなくても、普段のニュースなどで考えることも十分可能である。

私は、初めの方で、選挙に参加するのは社会の一員になるということ、今から勉強をしておくことが必要だと述べた。どちらも中学生で理解できていれば、選挙に参加し、社会の一員になって、政治について考えることも難しくはなく、ちゃんと自分たちが安心して暮らせる国ができると思う。結局、最後は自分のためになるのだから今からゆっくり、じっくりと時間をかけて考えてみるのも良いのではないだろうか、私は選挙についてそう考える。

えら坊賞（佳作）

選挙への姿勢

鴨志田中学校　三年　　本田　聖貴

近年、選挙と聞いてまず頭に浮かぶのは投票率の低さだろう。国政選挙の投票率は、平成二十九年十月に行われた第四十八回衆議院議員総選挙で約５４％。令和元年に行われた第二十五回参議院議員普通選挙で約４９％と、どちらも国民の半分又はそれ以下の人数しか選挙に参加していないことになる。私も以前までは、選挙などどうでもいいと思っていた。しかし、学校での授業を通して、選挙とは、身分の差により、ある一部の人々が支配するという古くからの政治体制が、全員がルールを決めていくという画期的な制度へと変わったことにより得た大切なものと理解するようになり、選挙に対する考え方が変わった。人々は、先人たちが築き上げてきた選挙という努力の結晶にありがたみを感じ、選挙参加への積極的な姿勢を見せることが、本来あるべき姿ではないだろうか。

最近横浜市に関して、よくこんなことを耳にする。「ＩＲ」つまりカジノ誘致だ。カジノは横浜の発展を考えると良い案であろう。しかし、それによる近隣住民への問題も発生するし、横浜の雰囲気はだいぶん変化するかもしれない。この問題に関しての意見は分かれると思う。各々が持つ意見を反映させるために与えられた場が選挙である。私たちは選挙を通して、そのような問題に関わることができる。横浜の発展を優先するか、保守を優先するかは選挙にかかっているのだ。このようなことは県や国の選挙でも同じである。

私たちが選挙でルールを決めるということは、私たちは選挙によって選び出された者・物によってすべてを握られている。私たちが選んだのだから、それらは法律の範囲内であれば何をやるにも自由だ。しかし、それらが私たちの望んだ道から外れた場合、私たちの意見は反映されたことにはならず、取り返しのつかないことになる。つまり、事態が悪化してからではもう遅いのだ。選挙とは病気の予防のようなものだと私は思っている。その予防を怠れば、後で苦しい思いをするのは自分自身だ。こうならないためにも、自分たちの意見が反映されない事態という病気に敏感になり、常日頃から意識しなければならない。

やはり、選挙に参加しないというのは、自分自身のことを他人任せにしている点では少し損をしている。確かに、自分の小さな一票だけでは大きな効果はないし、自分に直接的な影響がない限り、だれが当選しても良いと思うかもしれない。しかし、まずは選挙に参加する姿勢をとることが重要だ。そうすれば、自然と選挙に対する考え方は変わってくるかもしれない。私はもうすぐ選挙権を持つようになる。選挙とは、今私が思っている程簡単なものではないかもしれない。しかしそうであっても、選挙に臨むという姿勢は変わらない。そうすれば明るい未来が待っている、そう信じているからだ。

選挙啓発・中学生の作文コンクールへの応募ありがとうございました

年度の初めから、新型コロナウィルス禍で国内外が大きく揺れ動く昨今。第四回青葉区明るい選挙推進作文コンクール２０２０を実施いたしました。当初、このような現状からコンクールの実施を危ぶんでいましたが、なんと１６４作品の応募があって、関係者を驚かせました。これは、日ごろからご指導なさる学校の先生方やご家庭のご理解とご支援の賜物と感謝し、お礼を申し上げます。

さて、私たち青葉区明るい選挙推進協議会では、区選挙管理委員会、区総務課統計選挙係と手を携え、現場の三人の先生方のご協力をいただいて応募作品を一つ一つよませていただき審査を行いました。

審査基準は次の通りです。

１　横浜や青葉区、地域に対する思いが感じられること。
２　選挙や政治・社会の仕組みについて正しく理解していること。
３　時事問題について興味を示し、適切に取り入れていること。
４　知識、事実を並べるだけでなく、独自の発想、意見が述べられていること。
５　文脈がしっかりしていて、論理が一貫していること。

結果、「青葉区明るい選挙推進協議会会長賞」一名、「青葉区選挙管理委員会委員長賞」一名、「青葉区長賞」一名、「えら坊賞（佳作）」五名を決定いたしました。

読ませていただいた作品は、どれもが応募なさった中学生の「選挙」に対する熱い思いが伝わってきます。ユニークな具体例を出したり、外国の状況を紹介するなどの工夫も見られました。また、たくさんの選挙に関わるアイディアもいただきました。

私たちは、コンクールに寄せられた１６４の作品をしっかりと受け止めて、これからの選挙に活かしていきたいと願っています。そして、明るい選挙のさらなる向上に活かしていきたいと考えています。

皆様ご協力をありがとうございました。

青葉区明るい選挙推進協議会
会長　柏村　茂

青葉区明るい選挙推進作文コンクール 2020 入賞作品集

＜発行＞
令和２年 12 月
青葉区明るい選挙推進協議会／青葉区選挙管理委員会／青葉区役所
〒２２５－００２４
横浜市青葉区市ヶ尾町３１番地４
ＴＥＬ　０４５－９７８－２２０５～７
ＦＡＸ　０４５－９７８－２４１０

☆入賞作品は、青葉区明るい選挙推進協議会のホームページでも公開しています。

青葉区明るい選挙推進協議会　検索

主催　青葉区明るい選挙推進協議会・青葉区選挙管理委員会・青葉区役所　　**後援**　横浜市教育委員会